

令和元(2019)年度の評価と今後の取組の概要

1. 防災気象情報の的確な提供及び地域の気象防災への貢献

台風の進路予想の精度向上は着実に進展していますが、今年度も令和元年房総半島台風（台風第15号）、令和元年東日本台風（台風第19号）などの相次ぐ襲来などにより、各地で自然災害が発生してしまいました。気象予測の更なる精度向上、緊急地震速報の改善等とともに、気象防災の関係者向けワークショップの開催や地域防災リーダーを通じた住民向け普及啓発などを行い、気象台のもつ危機感が市町村や住民に的確に伝わることを目指します。

2. 社会経済活動に資する気象情報・データの的確な提供及び産業の生産性向上への貢献

ビジネスにおける気象データ利用環境の改善を進めた結果、気象データの利用実績が大幅に向上しました。また、黄砂に関する情報を改良し、高度化を実施しました。引き続き、新たな気象ビジネスの創出・活性化に取り組むほか、天気予報の精度向上に取り組めます。

3. 気象業務に関する技術の研究・開発等の推進

数値予報については、予測と観測データ利用手法の改善を運用中の計算機システムに導入したほか、新しい衛星データの利用を開始しました。引き続き、利用する観測データの拡大や利用手法等も通じて精度向上に取り組めます。また、気象レーダーのデータ利用技術の高度化について、今後も一層取り組めます。

4. 気象業務に関する国際協力の推進

静止気象衛星「ひまわり」を用いた機動的な観測の利用実績が着実に上がっているほか、温室効果ガスの情報提供の充実に向けた取り組みを進めています。引き続きこれらの取り組みを進め、国際協力に貢献していきます。